

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 4 日現在

機関番号：32601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23652087

研究課題名（和文）

東ユーラシアにおける国と語族を超えた言語地図によるミクロ・マクロ言語史の再構築

研究課題名（英文）Reconstruction of Macro and Micro Linguistic History Using Linguistic Maps across Countries and Language Families in Eastern Eurasia

研究代表者

遠藤 光暁 (ENDO MITSUAKI)

青山学院大学・経済学部・教授

研究者番号：30176804

研究成果の概要（和文）：

タイ・カダイ語、ベトナム語、チベット語、アイヌ語、ニヴフ語、日本語、朝鮮語、モンゴル諸語、中国語、ミャオヤオ語などをカバーする地理言語学的研究を行い、その研究成果を交流するため国際研究集会を「第一回アジア地理言語学国際会議」の名において開催した。特にベトナム語諸方言については清水政明教授らの貢献により現地調査を行い、整理・研究も進んだ。こうした成果を公開するため英文によるホームページも開設した。

研究成果の概要（英文）：

Geolinguistic studies on Tai-Kadai, Vietnamese, Tibetan, Ainu, Nivkh, Japanese, Korean, Mongolic languages, Chinese, Hmong-mien were carried out. An international research meeting was held under the name of “The First International Conference on Asian geolinguistics” in order to exchange the results of these studies. Notably, thanks to the contribution of Professor Masaaki Shimizu and others, field investigation and researches were done concerning Vietnamese dialects. A website written in English was established to spread these results.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：言語地図, 方言地図, 言語地理学, 方言地理学, アジア言語, 言語類型論, 言語史

## 1. 研究開始当初の背景

地理言語学は日本では非常に発達しているが、日本語に関する研究以外はアジア諸語については中国語・朝鮮語に関する先駆的な研究がある他はまだ未開拓の言語・地域が大半を占めている。

本研究では、この二十年来日本の中国語方言学者が継続して行なってきた中国語に対する地理言語学的研究を更にその近隣のアジア諸言語に適用し、この研究分野を振興することを目指した。

## 2. 研究の目的

1) 東ユーラシア(即ち北東アジア・東アジ

ア・東南アジア地域)について、語族内および国や語族を超えた音韻・語彙・文法にわたる各言語特徴ごとの言語地図を計 100 枚ほど作成し、そのような地理分布が生じた理由を歴史言語学的・言語類型論的に考察する。

2) そのためにはこれまでなされた方言調査・言語調査についての地点別文献目録や各地点の経度・緯度情報リスト, 大小さまざまな白地図を用意する必要がある。ArcView, MANDARA, Google Maps のそれぞれに対応した作図技術を確立し、多くの研究者が簡単に使用できるようにする。

3) この地域の言語群をほぼ満遍なくカバー

する諸言語の方言学・歴史言語学研究者が一堂に会して共同研究を行うことにより、アジアの東半分をカバーする地域についてさまざまな言語特徴に関して意見交換を行い、緊密なネットワークを構築する。

### 3. 研究の方法

1) 東ユーラシア諸地域の諸言語に関してこれまで出された方言資料をリストアップし、地点ごとに経度・緯度情報を取得し、選定された言語特徴についてエクセルデータを入力する。

2) ArcView, MANDARA, Google Maps のいずれかの描図ソフトによってデータを地図化し、その地理分布の解釈を行う。

3) ケーススタディとして、ベトナムに関しては現地調査を行った。現地研究者の協力も得て、短期間のうちに系統的なデータを得ることができ、またその整理も順調に進み、地図化・解釈・論文化、英文による解説などもほぼ完了し、まもなくホームページに公開できる見通しである。

4) 各言語群ごとの研究成果を交流するため、2012年12月に国際研究集会を開催した。これを第一回とし、以降は二年おきに定期的にアジア地理言語学の活動を展開していく端緒を開くことができた。また国内の研究会も計画し、2013年6月から年次集会を定期的に開催する運びとなっている。

5) 以上の研究成果を世界に向けて発信するホームページを開設した。

### 4. 研究成果

2012年12月14日から15日まで青山学院大学において今回のプロジェクトの研究を総括する国際研究集会を「第一回アジア地理言語学国際会議」の名において開催した。

この会議ではタイ・中国・台湾からも研究者を招聘し、国内の研究者も含め計25件の発表と討論がすべて英語で行われ、論文集として *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics* を多色刷りで刊行した。内容的には、総論としてアジア全域の地理言語学的研究の概要と展望を行い、タイ・カダイ語、ベトナム語、チベット語、アイヌ語、ニヴフ語、日本語、朝鮮語、モンゴル諸語、中国語、ミャオヤオ語などをカバーする地理言語学的研究からなるものである。

その多くの言語についてはこれまで地理言語学的研究が適用されたことがないか、あるいは先駆的な研究があるものであることが多い。またこれまでの蓄積がある言語に関しても各言語群の範囲内での検討にとどまっていたが、このたびアジア全域というパースペクティブで一望に見渡すことの端緒を作ったものとして意義深い。

この論文集は計100部印刷し、50部あまり

を国内外の有力な研究者および図書館・大学に寄贈した。これは今後の研究者の間の交流の拡大や新たな研究者の参入を促すものであり、現に次回の国際会議に参画したいという反応を複数得ていて、今後に期待が寄せられる。

更に、前年度に大阪大学の清水政明教授らと本国の研究者とのコラボレーションにより行われたベトナム語諸方言の現地調査の整理も進み、全項目に関する地図化と英文による解釈もほぼ完成している。

こうした成果をホームページで公開するための準備を行い、2013年度にはそれが実現する運びとなっている。また今回のプロジェクトを契機として形成されたネットワークにより2013年6月からは国内で引き続き毎年一回の予定で研究集会を行い、2014年8月にはタイで第二回の国際研究集会を開催し、以後は二年おきにアジア諸国で開く予定であり、アジア全域を一つの言語地域として言語地図を描き解釈を与えるという新領域を立ち上げ、軌道に乗せることができた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計33件)

① 鈴木博之, カムチベット語 sDerong-nJol (得榮徳欽) 方言群の諸方言における弱強型の韻律特徴と分節音に見えるその反映形, 大西正幸・稲垣和也・伊藤雄馬編『地球研言語記述論集』5 (印刷中), 査読無

② 遠藤光暁, 中国広西における諸言語の無声側面摩擦音の地理分布と形成過程, 青山学院大学経済研究所『経済研究』5, 21-30, 2013. 査読無

③ 鈴木博之, 雲南藏語土話中の特殊数詞形式: 其地理分布與歴史来源, 『第二届中国地理語言學國際學術研討會會議論文集』125-134, 2012年, 査読無

④ Mitsuaki Endo, Tasks of Asian Geolinguistics, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 1-11, 2012. 査読無

⑤ Kalaya Tingsabadh, Thai Dialect Studies at Chulalongkorn University, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 12-24, 2012. 査読無

⑥ Sirivilai Teerarojanarat and Kalaya Tingsabadh, Mapping Spatial Ongoing Change of Thai Dialects in the Upper Central Region of Thailand: a Case of Phonological Study, *Papers*

from the First International Conference on Asian Geolinguistics, 25-35, 2012. 查読無

⑦ Zeng Xiaoyu and Mitsuaki Endo, The Geographical Distribution and History of Negatives in Tai-Kadai, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 1, 36-44, 2012. 查読無

⑧ Mika Kondo, A Preliminary Survey of the Isoglosses in Vietnam, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 45-64, 2012. 查読無

⑨ Masaaki Shimizu, The Quảng Nam Dialect of Vietnamese in Historical Perspective, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 65-78, 2012. 查読無

⑩ Hiroyuki Suzuki, Tibetan Pigs Revisited: Multiple Piglets with a Sow in Yunnan Tibetan and beyond, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 79-88, 2012. 查読無

⑪ Mika Fukazawa, The Distribution and Interpretation of Words for Parents —'Mother' and 'Father' in Ainu Dialects, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 89-98, 2012. 查読無

⑫ Hidetoshi Shiraishi, Restrictions on Vowel Sequences in Nivkh, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 99-106, 2012. 查読無

⑬ Nobuko Kibe, A Study on the Phonetic Variation in Japanese Dialects Using the 'Acoustic Linguistic Atlas of West Japan', *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 107-115, 2012. 查読無

⑭ Jinhua Li, Studies on Korean Dialects in China and North Korea, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 116-125, 2012. 查読無

⑮ Yoshio Saito, The Words for "Rain" in the Mongolic Languages: Their Geographical Distribution and History, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 126-132, 2012. 查読無

⑯ Ray Iwata, On the Formation of Geographically Complementary Distribution, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 133-140, 2012. 查読無

⑰ Zhiyun Cao and Xiaohai Liu, The Introduction of Linguistic Atlas of Chinese Dialects, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 141-151, 2012. 查読無

⑱ Li Shen and Naomi Nakano, A Gradual Path to the Loss of Entering Tone Syllables: Case Studies of Jin Dialects in the Lingshi Highlands, Shanxi, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 152-170, 2012. 查読無

⑲ Kenji Yagi, The Distributions and Changing Process of Tone Value in Shanxi Area, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 171-180, 2012. 查読無

⑳ Uijin Ang, The Linguistic Distribution and Regionalization of Taiwan, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 181-195, 2012. 查読無

㉑ Hsiao-feng Cheng, The Linguistic Geography of Inland Dialects of Fujian, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 196-216, 2012. 查読無

㉒ Takashi Ueya, History of the Words for 'Water chestnut' in the Chinese Dialect, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 217-224, 2012. 查読無

㉓ Jung-min Li, Calculating the Velocity of Language Spreading across Space -- an Application of Glottogram in Linguistic Chronology, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 225-234, 2012. 查読無

㉔ Yoshihisa Taguchi, SKY in Hmong-mien: Geography and Phylogeny, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 235-242, 2012. 查読無

㉕ Chitsuko Fukushima, Potential Forms in Niigata Dialect: A Preliminary Report, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 243-248, 2012. 查読無

㉖ Takuichiro Onishi, Gerund in Japanese Dialects: Forms and Geographical Distributions, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 249-260, 2012. 查読無

㉗ Shinsuke Kishie, Yukichi Shimizu, Victoria Bloyer, Geolinguistic Research by Questionnaire in the Kyushu District, *Papers from the First*

*International Conference on Asian Geolinguistics*, 261-272, 2012. 査読無

⑳ Mieko Takada, Regional and Generational Variation of VOT in Japanese Word-initial Stops, *Papers from the First International Conference on Asian Geolinguistics*, 273-282, 2012. 査読無

㉑ 遠藤光暁, 「時間系列語言地図」 巖翼相編 『中国方言中の語言学与文化意蘊』 39-5, ソウル、韓国文化社、2011年、査読無

⑳ 岩田礼, 「アジア東部諸言語の喉頭特徴・まえがき」 『音声研究』 第15巻第2号、38-49, 2011年、査読有

㉓ 遠藤光暁, 「アジア東部諸言語の喉頭特徴」 『音声研究』 第15巻第2号、40-51, 2011年、査読有

㉔ 鈴木博之, 「チベット語諸方言に認められる喉頭特徴の多様性」 『音声研究』 第15巻第2号、52-60, 2011年、査読有

㉕ 遠藤光暁, 「20世紀初台湾原住民語言地圖: 「手」和「五」」 『臺灣語文研究』 第6巻第2期、1-14, 2011年、査読有

[学会発表] (計8件)

① Mitsuaki Endo, Tasks of Asian Geolinguistics, First International Conference on Asian Geolinguistics, Aoyama Gakuin University, Dec. 14-15, 2012.

② Zeng Xiaoyu and Mitsuaki Endo, The Geographical Distribution and History of Negatives in Tai-Kadai, First International Conference on Asian Geolinguistics, Aoyama Gakuin University, Dec. 14-15, 2012.

このほか、この国際会議での発表は論文のところに挙げた通りであり、ここに重複させて掲載することは避ける。

③ 遠藤光暁, 広西各種語言中清邊擦音的地理分布和形成過程, 第二届中国地理語言学国際學術研討会, 南京大学(中国), 2012年10月19-21日

④ 遠藤光暁, 阿美語身体部位詞彙的語言地理学研究, 第九屆台灣語言及其教學國際研討会, 国立中央大学(台湾), 2012年10月5-6日

⑤ Suzuki, Hiroyuki, New perspectives for the Tibetan dialectology using the method of the linguistic geography—a report from Eastern Tibetan cultural area—. Paper presented at 3rd International Seminar of Young Tibetologists (Kobe), September, 3-7, 2012.

⑥ 遠藤光暁, 「現代漢語各方言年齡差異所反映的音韻變化類型」, 第四屆國際漢學會議, 中央研究院語言學研究所, 2012年6月20-22日

⑦ 鈴木博之, 川西民族走廊藏語與非藏語的語言接觸—以語法與詞匯為例, 香港科技大学(香港)招待講演, 2011年9月23日。

⑧ 遠藤光暁, 「東亞語言中的"鉛筆"」, 第四屆韓漢語言学国際學術研討会、台湾高雄国立中山大学、2011年4月30日

[図書] (計1件)

① 遠藤光暁, 竹越孝編 『清代民国漢語文献目録』 ソウル、学古房、424頁、2011年

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

遠藤光暁 (ENDO MITSUAKI)  
青山学院大学・経済学部・教授  
研究者番号: 30176804

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

### (3) 連携研究者

岩田礼 (RAY IWATA)  
金沢大学・歴史言語文化学系・教授  
研究者番号: 1330178220

中井精一 (SEIICHI NAKAI)  
富山大学・人文学部・准教授  
研究者番号: 1320120727

呉人徳司 (TOKUSU KUREBITO)  
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授  
研究者番号: 1260383027

福嶋秩子 (CHITSUKO FUKUSHIMA)  
新潟県立大学・国際地域学部・教授  
研究者番号: 2310235020